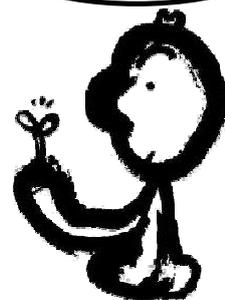


NEWS



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203 (サンピア2F)

TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

“剛”よりも“柔”

先日10月31日、今年も当基金の助成事業が無事終了し、14団体が助成を受けられました。こうして助成事業が続けられるのも、支えてくださっているみなさまのお陰であることを、まず心から感謝したいと思います。

そもそも、しみん基金KOBÉが生まれたきっかけは12年前の阪神・淡路大震災ですが、「ボランティア元年」という言葉に象徴されるように、災害後のボランティア活動が大いに注目されました。その影響もあって、その後の国内外で相次いだ災害のボランティア活動に公的な資金が活用されたり、当事者たちが自ら資金を集めての基金を設置したりと、ボランティア活動を活性化するための環境整備の一つである財源面に活路を開いています。

しかし、云うまでもなく被害を少なくするには、日頃の備えが肝心であり、日頃の備えをいざというときに活かすには、知恵が必要だろーと思います。2004年のインド洋沖津波で被害を受けたスリランカのある村の中学生が、「智恵があれば人生は光る」といいましたが、あまりのすどい感性に「マイッタ!」と思いました。また、ある障害者の方が「俺等、毎日が災害や!」と言われたことが忘れられないのですが、こういう状態をなくすには、結局日頃から誰にとっても「安心で、安全な社会」であることが大切なのだろーと思います。

こういう考え方は一見当たり前のように聞こえますが、現実にはかなり難しいのも事実です。ならば、「災害と共存する」という考え方をもち、少しでも被害を減じようという、いわゆる力でねじ伏せるといふ“剛”の対策ではなく、受け止めてかわすといふ“柔”の対策を多彩に求めることが自然な気がします。そのためには、日頃から多彩なボランティア活動が活発になることが不可欠で、これからも微力ながら当基金がお役に立てればと願っています。

しみん基金KOBÉ・副理事長
被災地NGO協働センター 代表
CODE海外災害援助市民センター 事務局長・理事
村井雅清

主な目次

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| ◆ 平成19年度助成事業のご報告 ----- 2 | ◆ NPOメッセ2007 in 関西ご案内 ----- 7 |
| ◆ しみん基金・KOBÉのこれまでのあゆみ ----- 4 | ◆ リサイクル寄付 ----- 7 |
| ◆ 1.17メモリアル・コンサートご案内 ----- 6 | ◆ 12年目のひとり言 ----- 8 |
| ◆ はぁ〜とふるふぁんど応募開始のお知らせ --- 6 | ◆ 会員数とご寄付のご報告 ----- 8 |



平成19年度しみん基金・こうべ助成事業のご報告



平成19年10月31日(水)、神戸市生涯学習センター(コムスタ神戸)にて、平成19年度しみん基金・こうべ助成事業の公開審査会を行いました。当日は、多数の来場者にお越しいただきました。

審査の結果を受けて同日の理事会にて、以下のとおり14団体(少額枠：5団体、一般枠：5団体、特定枠：4団体)の各事業に合計3,101,000円を助成することに決まりました。

なお少額枠とは、今年度より設定されたもので、一般枠の中から申請額が10万円以下の団体より、書類選考のみで当基金の趣旨にかなった団体の事業を選考いたしました。

また、特定枠とは、寄付者の意思を反映させた指定寄付金による助成枠で、今年度も昨年に引き続き環境の保全を図ることを目的とする事業に対して設定されました。

公開審査会までのプロセス

今年度の助成事業は8月上旬に応募要項を公表し、8月7日～9月7日の期間に申請受付を行いました。



応募総数は55件(一般枠46件、特定枠9件)。その後、9月19日の当基金役員運営会議にて書類選考の結果、22団体(一般枠16団体、特定枠6団体)の方々に公開審査会でプレゼンテーションを行っていただくことになりました。また同時に、少額枠の助成先5団体を選考いたしました。(下表参照)

その後、9月下旬から10月上旬にかけて、当基金の理事が手分けして各団体の活動場所を訪ね、ヒアリング調査を実施いたしました。各審査員へは、申請書類とヒアリング調査結果報告を事前にお読み頂いた上で10月31日の公開審査会に臨んで頂きました。

助成決定団体・事業

区分	番号	団体名	事業名	所在地
		事業の目的・社会的必要性(申請書類より抜粋、一部補足)		
少額枠	1	やまとボランティア	高齢者・障害者・子育て支援事業	神戸市灘区
		高齢者や子ども達が安全で安心して生活できるように支援し、また震災での経験や教訓を語り合い共に生きていることの喜びといのちの大切さ・尊さを子ども達に伝承する。		
	2	(特) Art Produce & Management Network	K-EN プロデュース in Sonic Hall	神戸市西区
		高校生の学校の枠にとらわれない文化活動を支援し瑞々しい感性を伸ばさせる。また、社会文化活動の担い手となり得る視野と技術を持った青少年を育成し、世代や社会的立場を超えて文化活動に参画できる社会づくりへの布石とする。		
	3	こどもの家 ひなたばっこ	心豊かに楽しい子育て	神戸市中央区
	増え続ける子ども達への虐待や低年齢層の犯罪を減らすために、親も子ども孤立することなく、子ども達がその子なりに心豊かに生き生きと育ち合い、父母が子育てを楽しめるような環境を提供する。			
4	和会(なごみかい)	獅子舞を通じて地域の活性化と青少年の健全育成を支援する	神戸市中央区	
	地域活動への参加意識の低下に伴い関係が希薄化している地域住民で青少年・高齢者を支えていくために、地域自治団体等と協力しながら獅子舞の演舞活動を地域で行なうことで、地域活動への参加を促し地域の活性化に貢献する。			
5	こどもコミュニティケア	小規模保育シンポジウムの開催	神戸市垂水区	
	各自自治体やNPOが行っている認可保育園よりも小さな規模の保育(施設)の、小規模ならではの取り組みや課題を紹介しあい、今後多様なニーズに応えていく新たなあり方を探り、相互のネットワークと協働のきっかけづくり、自らの支援や保育活動を振り返り、一層よりよいものとするための学習機会を提供する。			

区分	番号	団体名	事業名	所在地
一般枠	6	クラフト工房錦城の園	食器洗浄機の購入	明石市
		障害者小規模通所作業所にて、毎日20数名分の昼食の食器を手洗いしているが大変である。衛生上も心配であるが、公的補助金では高額な備品購入は難しく、支援をお願いしたい。		
	7	兵庫盲ろう者友の会	盲ろう者への相談・支援事業	神戸市中央区
		視覚と聴覚の2重障害のために、外出困難、コミュニケーション困難、生活困難を抱えている盲ろう者に対して、社会参加のための様々な支援を行う。		
	8	(特) はらっぱ	コネコネ、ベタベタ、あ～おいしい～2,3才児と親のための食育～	西宮市
		今注目を浴びている食育は、本当に乳幼児から身につける必要があるということ、現在行っている保育の現場でも痛切に感じている。そこで、まだ包丁を持たずことが不安な2,3才児とその親を対象として食育の教室を開くことによって、親子で食に関する知識と食を選ぶ力を身につける機会を提供したい。		
	9	神戸プラネット	映像から見るブラジル移民の現在	神戸市長田区
		来年はブラジル移民100年にあたるが、それに先立ちブラジル移民が現在直面している問題(より良い職を求めて、日本に再移住するブラジル移民の子孫たち)を、映像を通じて考える。		
	10	神戸フリースクール	「歌と踊りと紙芝居・花ひらく親子の広場づくり」プロジェクト	神戸市中央区
		いじめによる子どもの自殺が相次ぎ学校から抜け出せず追い詰められ死を選ぶ悲しい事件に直面して、フリースクールはもはや不登校の子どもたちだけの居場所であればよいのではないと感じました。地域とのつながりが希薄になって地域の教育力が低下していることが根本の原因としてあると考え、地域に開かれた子どもも大人ものんびりと楽しい時間を共有する広場をつくっていくことで、コミュニケーションの力を高めていくことを目指しています。		
特定枠	11	とびまつ森の会	とびまつ森再生と"里山づくり"	神戸市北区
		飛松中学校の学校林と周辺の森林を整備し、里山づくりを行うことによって自然から学び、自然を活用した作業や活動を行い、人々が心地よく過ごせる自然環境をつくることによって、安全・安心のまちづくりに寄与し、地球温暖化防止につなげる。		
	12	雌岡山梅林を育てる会	雌岡山梅林管理育成事業	三木市
		雌岡山梅林は約30年前に神戸市によって開発され維持管理されてきたが、10年ほど前に撤退しその後は放置されるに任されていた。この梅林は雌岡山の景観の中核をなすもので、荒廃していく姿を見るに忍びない思いをつのらせた有志が集まって梅林の維持・育成の活動を継続的にを行っています。		
13	(特) アマモ種子バンク	子供達に遺したい 魚がいっぱい泳ぐ海	西宮市	
	大阪湾沿岸は水質や底質の悪化だけでなく海草(アマモ)場の減少によって魚たちの生息しがたい海域となっています。地域の子どもたちにアマモの育苗を通して、アマモ場を回復させて魚たちの産卵場を確保し魚たちを呼び戻せる環境づくりを行います。			
14	六甲山自然保護センターを活用する会	市民でつくろう!六甲山上の自然探勝エリア	神戸市灘区	
神戸市に隣接する六甲山は、「都市山」として貴重な自然環境だが、実際には放置山林が多く残念ながら快適な自然環境は見当たらない。当会では、多くの市民と連携をとりながら六甲山上の記念碑台周辺の近畿自然歩道や隣接する雑木林の清掃・整備や生態調査を行い、自然環境の維持・保全や景観整備を図り、名実ともに市民の六甲山にしていきたいことを目指しています。				

当日ご出席頂いた審査員の皆さん(順不同・敬称略)

審査員長 山口一史((特活)ひょうごまちくらし研究所)

立木茂雄(同志社大学社会学部)

島田 誠(アートサポートセンター神戸)

清水勲夫((財)兵庫野外活動協会)

石東直子(石東・都市環境研究室)

松村敏明((社福)えんぴつの家)

藤井英映(兵庫県庁国際交流局交流課)

永井幸寿(トアロード法律事務所)

北川創一郎(毎日新聞社神戸支局)

森崎清登(近畿タクシー(株))

中瀬 勲(兵庫県立人と自然博物館)

しみん基金・K O B E これまでのあゆみ

「しみん基金・K O B E」は、もうすぐ設立 10 年という節目の年を迎えます。そこで今号では、最近になって「しみん基金・K O B E」を知った人にもわかりやすく理解していただくために、また皆さんと一緒に当基金を成熟させて頂くためにも、設立以来のあゆみを振り返ることになりました。

設立の経緯

1995年1月の阪神・淡路大震災後には復興支援のために全国から多くのボランティアが駆け付け、また1,800億円にもものぼる義援金が寄せられました。多くのボランティア団体が誕生し、公的資金である阪神・淡路大震災復興基金をはじめ、民間からも震災バブルとさえ言われるようになるほどの多額の活動資金が投入されました。

しかし、震災3年目の1998年頃から資金パイプは次第に細くなってきました。民間基金では、大口の「阪神・淡路コミュニティ基金」（代表・今田忠氏・現在当基金理事）が1999年3月で閉鎖されることが決まっていました。しかしながら、多くのボランティア団体では、資金がないからといって活動を取り止めることはできない状況でした。そこで、せっかく芽生えてきた市民活動を育てるためには、行政や大型民間助成財団に頼ることなく「市民の手で市民がつくる」基金をつくらうという構想が、市民活動団体有志が中心となって考えられはじめました。

そして、1998年11月30日に設立準備委員会が発足し、名称を「しみん基金・K O B E」とし、基本財産3,000万円、運営財産5,000万円の目標で募金を行うことになりました。幸いなことに、「阪神・淡路コミュニティ基金」から閉鎖前に、被災地NGO協働センターの村井雅清氏（現しみん基金K O B E 副理事長）に「しみん基金・K O B E」設立時に寄付をするということをご前提で助成が行われ、基本財産については目処が立ちました。

また、企業との連携を模索していましたところ、神戸青年会議所に事業参画していただくことになり、ビジネスに巧みな人材の協力が得られ、事務処理も飛躍的にスピードアップされました。さらに神戸市からは、人的支援とともに、旧中央区老人憩いの家を事務局として無償で提供いただくことになりました。

こうして「しみん基金・K O B E」は、官・民・学・企業の連携を図りながら、日本で初めて1999年7月に、

一人ひとりの市民がお金を出し合って市民活動を支え育て合っていくためのNPOによる基金として設立されました。

これまでの実績

「しみん基金・K O B E」の最大の特徴は、助成事業における審査のプロセスに反映されています。つまり、理事会とは独立した審査会が、公募申請のあった団体の中から、公開の場で選考すること、また選考の前に必ず各団体の活動現場に出向きヒアリング調査を行うことで、「市民の手で市民がつくる」という理念を具現化しています。今では、多くのところでこのようなプロセスを経て選考することがなされていますが、設立当時としては画期的なことでした。

「しみん基金・K O B E」では、これまでの8年間で延べ77団体に合計3,1957.7万円の助成を実施してきました。そのことによって、地域の市民活動・ボランティア活動の基盤形成の一助としての役割を果たし、これまで助成をしてきた団体の多くは活動を継続されていて、地域の中で大切な役割を担っています。

この助成事業を支えるために、これまで「しみん基金・K O B E」あてに多くの市民の方々による寄付が託されてきました。また、さらなるファンドレイジングとして、ぼたんの会やリサイクル寄付事業など今も続けている数多くのイベント募金や協働企画寄付システムなどの企画運営に携ってきました。（次ページ表参照）

これらはすべて、一人ひとりの市民が少しずつでも支えあい育てあう市民社会づくりに支援しようという想いの蓄積の賜物だと思います。このような仕組みを、多くの市民によりわかりやすく参加できインパクトのあるものに改善を積み重ね、また全国各地にこのような仕組みが広がっていくようにすることが今後の課題と考えています。

しみん基金・K O B E 活動年表

年	募金活動、講演会・イベント等	助成事業等
1999 (H11)	発起人会(5月) 設立総会開催(7月) NPO法人格申請	H11年度助成事業 (10~12月:15団体、800万円)
2000 (H12)	NPO法人格取得・登記完了(1月) 第2回こうべiウォーク ¹ (1月) 柳田邦男講演会(3月) ダイズ財団パイク会長講演会 ² (6月)	H12年度第1回助成事業 (5~6月:6団体、300万円) H12年度第2回助成事業 (10~11月:8団体、464.5万円) 「もういちど出会えてありがとう」支援事業 ³ (第1回:10~11月)
2001 (H13)	第3回こうべiウォーク ¹ (1月)	「もういちど出会えてありがとう」支援事業 ³ (第2回:1~3月) H13年度助成事業 (5~6月:7団体、429万円) 「もういちど出会えてありがとう」支援事業 ³ (第3回:5~7月)
2002 (H14)	市民活動団体と寄付者の交流会(7月)	ひょうごボランティアあしすと支援事業 ⁴ (1~5月) H14年度助成事業 (9~10月:9団体、300万円)
2003 (H15)	ぼたんの会・夜会 ⁵ (4月) 柳田邦男講演会(7月) 加藤周一講演会 ⁶ (9月) NPO支援アドバイザー派遣事業 ⁷ (6~2月)	ひょうごボランティアあしすと支援事業 ⁴ (1~5月)
2004 (H16)	リサイクル寄付事業開始(4月~) ぼたんの会・夜会 ⁵ (5月) NPO支援アドバイザー派遣事業 ⁷ (6~2月)	H15年度助成事業 (2~3月:9団体、292.1万円) ひょうごボランティアあしすと支援事業 ⁴ (1~5月)
2005 (H17)	竹下景子詩の朗読と音楽の夕べ ⁵ (1月) ぼたんの会・夜会 ⁵ (5月)	ひょうごボランティアあしすと支援事業 ⁴ (1~5月)
2006 (H18)	竹下景子詩の朗読と音楽の夕べ ⁵ (1月) ぼたんの会・夜会 ⁵ (5月) ひょうごコミュニティ・ファンド・ネットワーク (4月~)	ひょうごボランティアあしすと支援事業 ⁴ (1~5月) H18年度助成事業 (8~10月:9団体、300万円)
2007 (H19)	竹下景子詩の朗読と音楽の夕べ ⁵ (1月) ぼたんの会・夜会 ⁵ (5月)	ひょうごボランティアあしすと支援事業 ⁴ (1~5月) H18年度助成事業成果報告会(5月) H19年度助成事業 (8~10月:14団体、310.1万円)

助成事業通算 助成団体 77団体
助成総額 3,195.7万円

注釈

- 1 こうべiウォーク実行委員会との共催事業
- 2 神戸復興塾と共催事業
- 3 神戸市(神戸21世紀復興記念事業)からの委託事業
- 4 はあ~とふるふぁんど委員会(兵庫県遊戯業協同組合、ラジオ関西、神戸新聞事業社)からの委託事業
- 5 ぼたんの会実行委員会による事業(当基金は実行委員会の事務局として参画)
- 6 加藤周一講演会実行委員会による事業
- 7 神戸市からの委託事業((特)神戸まちづくり研究所との協働事業)



ぼたんの会からのご案内

～ 1・17メモリアル・コンサート 竹下景子さん “詩の朗読と音楽の夕べ” ～

大震災から13回目の「1・17」が巡ってきました。今年もぼたんの会実行委員会では、竹下景子さんをお迎えして「1・17メモリアル・コンサート “詩の朗読と音楽の夕べ”」を下記のとおり開催します。

あの時の想いが託された詩の世界にひと時静かな心で耳を傾ければ、忘れかけていた大切な気持ちが蘇ってきます。

今回は神戸出身で、今はニューヨークで活動されている名倉誠人さんの素敵なマリimba演奏も楽しめます。是非とも、詩の持つ感動を味わいにお越し下さい。



日時: 2008年1月17日(木)

開場 18:30 ~ 開演 19:00 ~

会場: 神戸新聞松方ホール TEL:078-362-7111

竹下景子さん詩の朗読 with 林昌彦さんピアノ演奏
名倉誠人のマリimba演奏

チケット: 前売 ¥2,500、当日 ¥3,000 全席自由席

チケットのお申込みは しみる基金・K O B E でも承っています。

「ぼたんの会」も今年で5年目を迎え、現在実行委員会ではこれまでの活動の検証を行っています。(近日中に当基金ホームページにて検証結果を公開予定です。)

この間、多くの方々の温かいご支援・ご協力により、順調に事業を展開してきました。当初のねらいのとおり神戸を中心とした地域に芽生えてきたNPO/NGOの活動基盤を支えるしくみのひとつとして定着してきました。ここにあらためてこれまでのご厚誼に御礼申し上げます。



はぁ～とふるふぁんど委員会

「ひょうごボランティアあしすと」支援事業・応募開始のお知らせ

平成20年1月より、兵庫県遊技業協同組合・ラジオ関西・神戸新聞事業社で構成された「はぁ～とふるふぁんど委員会」の20年度「ひょうごボランティアあしすと」支援事業が始まります。しみる基金・K O B Eはこの助成事務等を毎年受託しています。事業概要は以下の予定です。詳細は後日、当基金ホームページを通じてご案内いたします。

支援対象事業

支援の対象となるのは平成20年5月1日から平成21年4月30日までに終了する事業で、具体的な内容は以下のとおりです。

- ・環境の保全や創造に関する事業
- ・自然災害等による被災者支援や被災地復興を含む災害救援に関わる事業
- ・地域の安全、防犯等に関わる事業
- ・青少年の健全育成に関わる事業

支援金額

支給される支援金は、1事業について総事業費の4分の3以内で、最高100万円とします。

支援対象団体

5人以上のグループで活動されている地域の団体またはボランティア団体

支給された支援金の管理及び事業を遂行できる団体であること

兵庫県内を主たる活動の場とする団体

代表者、事務局等が明確になっている団体

報告書を期日までに提出することができる団体

法人化の有無は不問

申請応募期間:平成20年1月上旬～2月末日(予定)



“NPOメッセ in 関西 2007”のご案内



2007年12月1日(土)、2日(日)、3日(月)の3日間、近畿ろうきん・日本NPOセンター・関西の主要なNPO支援組織が協働で全国規模のイベント「NPOメッセ in 関西2007」を実施します。当基金は実行委員会の構成団体のひとつとして参画しています。

「分野、セクター、国境を超え、社会デザインの可能性を探る」を共通テーマとし、社会の新たな可能性を模索したいと考え、昨年度のノーベル平和賞受賞で世界的に注目を集めているバングラデシュの「グラミン銀行」の方をはじめ、中国、韓国からもゲストを招き、共に議論する機会を作りました。日本におけるNPOセクターのさらなる発展と社会作りへの多くのヒントを与えて頂けるものと考えています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

12月1日(土)〔無料〕

記念講演(12:30~15:45)

「社会を変える金融 グラミン銀行の挑戦から」

スピーカー ウマイ・クルスム(グラミン銀行副総支配人)

対談者(予定) 石橋 嘉人(近畿ろうきん 理事長)

セミナー1, 2(16:00~17:45)

1「社会的金融が動く お金の流れが社会を変える」

2「グラミン銀行手法を社会に活かす

多重債務なき社会へのアプローチを探る」

12月2日(日)〔2日目以降は有料〕

キーセッション(10:00~12:30)

「市民が担う新たな社会づくりの可能性」

パネラー

倉田めば(大阪ダルク・アソシエーション)

玉田雅己(パイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター)

前田信一(こども福祉研究所)

コーディネーター 山岡義典(日本NPOセンター)

分科会1~5(13:30~17:00)

1「ソーシャル・キャピタル形成の観点から見た社会づくり」

2「新たな社会づくりに向けたアジアの連携を考える」

3「市民によるアドボカシーにNPOが果たせる役割
とは - その現代的可能性を探る - 」

4「分野を超えセクターを超え社会制度の設計を考える」

5「NPO支援の現状は、NPOの自律を進めているか」

12月3日(月)〔2日目以降は有料〕

個別プログラム

(A, B: 14:00~17:00 / C: 11:00~18:00)

A「NPO共同事務所施設の可能性~日米の実践事例から~」(会場: piaNPO)

B「ISO/SR「組織の社会的責任」の規格化のゆくえ~ISO26000とは何か、ISO/SRウィーン総会報告会・関西~」(会場: 大阪NPOプラザ)

C「0泊7時間!?関西支援センター弾丸ツアー」

主催 近畿労働金庫、日本NPOセンター

NPOメッセ in 関西2007実行委員会

参加費 12月1日(土) 無料

12月2日(日)、3日(月) 有料

ご参加プログラム数に応じて以下ようになります。

キーセッション(2日午前)、分科会(2日午後)、個別プログラム(3日午後)のうち、

) ~ のいずれか一つだけ参加 3,000円

) ~ のいずれか二つに参加 5,000円

) ~ のすべてに参加 7,000円

申込締切 2007年11月22日(木)

参加申込・お問合せ先

日本NPOセンター

tel:03-3510-0855 e-mail: messe@jnpoc.ne.jp

プログラムの詳細、参加申し込みは下記から

<http://www.jnpoc.ne.jp/event/messe/>

＜リサイクル寄付のお問い合わせ＆ご協力方法＞

古着: オレンジスリフティ TEL 078-858-7090

〒657-0027 神戸市灘区永手町3-1-208

オレンジスリフティ 六甲店

- ・上記ショップへ持参または宅配便にて送付してください。
- ・送付の際は、メモにて「リサイクル寄付」とご記入の上、送料は送り主様にてご負担ください。
- ・お洗濯やクリーニングなど、一般的な処置を済ませていただいた上で、あまりに汚れているものや消えないしみのついているものは除いてください。再販売が可能なものと考えていただければ大丈夫です。

家具・家電製品: しみん基金こうべ事務局

TEL 078-230-9774

- ・まずはお電話ください。提携先企業より係員を派遣して品物を確認させていただきます。
- ・家電製品につきましては、2002年以降製造のものしかお取り扱いできません。ご了承ください。
- ・再販売できるものが対象ですので、状態によってはご協力いただけない場合がございます。

12年目のひとり言
~これから~

平成19年度の助成事業（公開審査会）が終了し、本年度、助成を受ける団体が決定された。審査の先生方が講評でおっしゃられていたが、「この審査は決して申請された事業の優劣を決めている訳ではない。どの事業も素晴らしい。そんな中で、しみん基金・こうべの理念・趣旨に、より近い事業を選んだに過ぎない」この言葉を私たちは重く受け止めねばなるまい。

しみん基金の成り立ちは、村井副理事長が巻頭コラムで述べられた通りである。更に言えば、設立からこれまでの助成事業に申請された事業は震災絡みのものが多く、助成支援した団体の多くは震災に関連した団体であった。しかし、最近の傾向として震災とは全く関わりの無い新たな分野で活動する団体、もしくは始まりは震災がきっかけではあるが、震災関連とは異なる活動フィールドへ事業を広げている団体からの申請が多くなってきている。

市民活動のフィールドが広がることは大いに歓迎すべきであるが、分野における専門性が高くなるにつれ、事業内容に対して意見が別れる場合が多くなることも事実であり、それらを見極める知識や目が必要となって来る。これまで「震災」という一つの基準で事業を評価してきた訳であるが、今後は新たな評価基準が必要であると感じる。勿論、当基金の基本である「草の根の市民活動を支える」という理念に何等変わるところは無い。しかし、時代の流れと市民活動の広がりと共に、基金そのものの方向性や助成の在り方をもう一度議論する必要性を痛感している。

しみん基金・K O B E 専務理事 瀬戸口仁三郎

会員数とご寄付のご報告

正会員 個人 39名 団体 5名
賛助会員 個人 126名 団体 14名

(2007年10月末現在)

寄付・募金合計金額 206,930円

寄付者・募金一覧（敬称略・順不同）

こうべリサイクルセンター、大賀重太郎、阿部圭宏、武田政義、神田栄治、高木清、オレンジスリフティ、被災地NGO 協働センター、阪神高齢者障害者支援ネットワーク、山口一史、松村敏明、黒田裕子

(2007年6月～2007年10月)

皆様に、心よりお礼申し上げます。

次号の予告(2008年3月頃発行予定)

- ・今年度助成事業の助成先団体活動紹介
- ・しみん基金・こうべ平成19年度活動報告

「しみん基金・K O B E」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円
団体会員 年間 10,000円



お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892
みなと銀行 本店営業部 普通 1597921
近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854
郵便振替 00990-5-157334
口座名義 「しみん基金・こうべ」

あ と が き

分野を超えてボランティアやNPO・NGOの価値についてこのごろ時々考えます。自発性・無償性ということや、行政や企業というセクターのできないことを補完する役割を担っているということなどが、よく言われています。でも、「慈悲喜捨」ということなのではというのが、今の私の直感です。つまり、お互いに慈しみ合い・悲しみ合い・喜び合い・自身の執着を捨てること、ということを実践する場ということが大切な価値では？ということなのですが、答は霧の中です。(え)